

【地域の概要】

- 関市の南西部に位置し、長良川と今川に挟まれた平坦な地区。
- 優良農地が連坦しているが、ブロックローテーションによる水稲、転作とに別れる地域である。
- 人・農地プランの実質化（金竜地域：小金田、保戸島、千疋、植野）における保戸島地区の中心経営体は22名。
地域内面積：270.39ha、認定農業者：法人6名、個人1名、認定新規就農者1名、基本構想水準到達者14名

①取組開始前の状況や課題

課題

- 耕作者の高齢化により、令和5年度以降の水稲栽培・管理が出来ないと言う課題が地区から上がってきた。



②取組内容

農地所有者・担い手との営農推進会議

- 第1回側島・保明営農推進会議（令和4年12月）
 - ・地区委員、区長、改良組合10名
 - ・地元の農地利用最適化推進委員会を中心に話し合いの場を設ける。
 - ➡農地中間管理機構事業を活用する案が上がる。
- 第2回側島・保明営農推進会議（令和5年2月）
 - ・地区委員、区長、改良組合10名
 - ➡水田40.35haの内、側島3ha・保明各3haを特定作業委託として新たな担い手（「森ライス」「セイブ農産」）へ貸し出す案が上がる。



- 令和5年の秋頃に特定作業委託をした6haを含め水田40.35haを「農地中間管理機構」へ貸し出し、新たな担い手へ集積・集約化する。
- 担い手については、地域の営農組合から名前が上がった「森ライス」「セイブ農産」に地域から依頼を行う。
- ※「森ライス」岐阜市芥見、「セイブ農産」関市

③今後の展開と方向性

農地所有者への説明

- 「農地中間管理機構」へ貸し出しを行うにあたり、農地の確定及び、農地所有者への説明会を開催する。
- ➡地権者の洗い出しを行い、10月頃から5回位に分けて、集積・集約化について説明会を行う。

新たな担い手の確保

- 新たな新規就農者及び、担い手の確保を目指す。
- ➡地域の重要課題としての位置づける。
- ➡側島・保明からの新規就農者の確保が重要であるが、他地区からの新規就農者の確保も検討する必要がある。